

JAグループ山形 JAグループ山形 サクランボ労力確保 沖縄など3JA連携に参加

【山形】JAグループ山形は、サクランボの収穫期の労働力確保に向け、JAグループ沖縄との連携に乗り出す。JAおきなわとJAふらの（北海道）、JAにしち（北海道）、JAにしちわ（愛媛県）が既にアルバイトの雇用をリリースしていないでいる事業に今シーズンから加わる方向。JAグループ内の連携で、労働力不足に対応する。

山形県のサクランボ産地では、高齢化などで毎年6、7月の収穫期の人手不足が深刻化。毎年200〜300人が不足していると言われ、大きな課題になっている。

JAおきなわとJAふらの、JAにしちわが2017年度から連携してアルバイトの雇用確保に努めていることに着目。連携拡大を目指すJAグループ沖縄と調整を進めてきた。

JAおきなわでは、12月〜3月にサトウキビの収穫や製糖作業に従事

その後、4〜10月にJAふらのでメロンの品質管理やスイカ、ミニトマトの定植・収穫、11〜12月にはJAにしちわでミカンの収穫や選果を手伝う。

3JAを移動し、アルバイトするのはまだ十数人にとどまるが、これに山形の6、7月のサクランボの作業が加わることで、仕事の選択肢が増え、多様な人材の確保も期待できる。

JAグループ山形地域・担い手サポートセンターは「3JA以外の連携も含め、宿泊支援など、農家とも連携して労働力確保に努めていく」と話している。

22日は沖縄県でJAグループ沖縄と情報交換会と求職者説明会を開く。

山形県のサクランボ主産地のJAとJA全農山形、JAグループ山形地域・担い手サポートセンターの職員が参加する。